杉戸町立高野台小学校　令和7年度　学校評価（学校自己評価・学校関係者評価）

評価項目	目標	具体的取組	指標 （指標ごとの評価）		自己評価 評価	自己評価 達成状況（成果・課題）	改善策	学校関係者評価 評価	学校関係者評価 意見・要望・支援策等
確かな学力	個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善	○個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実した単元計画、指導方法の実践 ○日々の授業において、個人、ペア、グループなど目的に応じた様々な形態で、相手意識・目的意識をもった学び合いの実践	○学校アンケート（知及び学習に関する項目）【児童・保護者・職員平均９３％以上】 ※令和6年度87.3％	B	A	○個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実し単元計画を立て、自由進度学習等を用いて授業を実施した。本時の授業や単元の最後の姿を明確にすることで、児童が学びの見通しをもち、進んで学びに向かう姿も多く見られるようになった。特に見通しがもてるような次時の学習を予告することで、自学で学びを深めてくる児童が増えてきてた。 **【知及び学習に関する項目84.7%】** ○家庭学習については自分事となるようにさらなる取組が必要。 ○学力向上週間を行い、基礎学力向上を図った。 **【家庭学習88.5%】**	○児童が学びを自分事と捉え、目的意識をもち、主体的に取り組めるようにするために、自分自身の課題を自分自身で把握し、見通しをもって学んでいく場面を学習に取り入れていく。 ○個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実し、主体的・対話的で深い学びへの授業改善を引き続き行い、児童の資質・能力を育む。 ○宿題を含む家庭学習は、家庭で着実に見届け、定着を図っていくものであることを繰り返し保護者に伝え、家庭と連携した基礎学力向上体制を構築していく。また、目的をもって授業に取り組むための家庭での自学の充実を図る。	A	○「めあてをもって進んで学習やノートをしっかりととれている」の項目が向上していることは、素晴らしい。 ○単元の最後の姿を明確にしているので、振り返りを次の学習に生かせていないことが不思議である。振り返りが形式的に流れていないかを再度確認して、振り返りが次の学習へのステップとなるよう、引き続き指導してほしい。また、学習の見通しについても、模範的な例を児童から集めて、お手本として示したらよいのではないか。 ○高野台小学校の指導は、授業の内容や個別の指導などよくできていると思う。 ○個別最適な学びと協働的な学びの中で子供たちが少しでも楽しくかつ有効に学べるようにと教師がよく頑張っている。また、子供たち一人一人の個性を大切にしようということも感じられる。 ○自学による取組と自由進度学習による取組み、学習予告による自学の推進を行っている。 ○学校が考える家庭学習は、保護者と学校が協力した上で目的をもった自学の実施、家庭で着実に見届け・定着を図るということだが、保護者の理解が十分とはいえない。具体的にどのように自主学習をさせたらよいかわからないという話も聞いている。学年別に具体的な家庭学習の見本を示すなど、引き続きわかりやすく導いてほしい。 ○ICT化が進み、筆記用具で書く場面が減少していることが気になる。 ○「子どもたちは本を読んでいる」の項目は、子どもと保護者のとらえ方の違いなのかもしれないが、毎年同じような傾向になっていることが気になる。教職員の数値の低下も気になり、対応が必要であると感じる。
	家庭（地域）と連携した家庭学習・基礎学力の定着	○保護者と学校で協力した上での目的をもった家庭学習・自学の実施 ○基礎学力定着のための学力向上週間の実施	○学校アンケート家庭学習【児童・保護者平均８５％以上】 ※令和6年度82.4％	A					
豊かな心	自他ともに大切にし、多くの人々と協働していく児童の育成	○全教育活動を通し、自己肯定感、自己有用感、コミュニケーション力、やり抜く力等の非認知能力の育成（きらりカード、校長賞等） ○規範意識を高めるとともに、学校内外でもあいさつのできる児童の育成	○学校アンケート（徳に関する項目）【児童・保護者・職員平均９３％以上】 ※令和6年度86.1％	B	B	○きらりカードや自分のよさを他者から伝える活動を全学年で共通理解のもと行うことができた。 ○学校行事も活用し、全学年できらりカードの交換を実施した。 ○「進んであいさつする」について、校内では改善されつつあるが、家庭・地域においては課題が残った。引き続き指導を徹底していく。 **【徳　88.4%】**	○自己肯定感、自己有用感、コミュニケーション力、やりぬく力等の非認知能力は生きる力の根幹となるものであることから、今後も全教育活動で育む取組を実施していく。 ○来年度も生活目標に「あいさつ」の項目を位置づけ、校内のあいさつだけでなく、関わってくれている方すべてにあいさつをする大切さ、必要性を繰り返し指導し、感謝の心を育んでいく。	B	○きらりカード、校長賞、ぽかぽか言葉などをとおして、教師の温かい思いが子供たちに伝わり、子供たちにも響いており、学校全体が明るく温かい雰囲気になっていることを感じます。 ○きらりカードによる言葉遣いの改善がみられる。 ○きらりのアンケートは、中学年まで、二学期は向上している。高学年に課題もあるようであるが、成果も上がっているところも見られるので、今後もしっかりと取り組んでほしい。 ○下校時に地域の方にあいさつをしたりゴミ拾いをしている児童もいる。 ○あいさつは高小の特徴であり、これまで通りできていると感じている。しかし、登下校のあいさつには課題がある。あいさつは家庭などまずは大人からであると思う。その分が伸びしろである。 ○今後は優しさや礼儀正しさと併せて、自己肯定感から生まれる積極的・主体的な行動をとれるような活動、施策を期待したい。
健やかな体	たくましく生き抜く児童の育成	○何事にも根気強く、あきらめずに取り組む児童の育成 ○体育の授業の充実を図り、運動の楽しさを味わわせ、運動好きな児童の育成（思いっきり汗をかく体育授業） ○家庭と連携した規則正しい生活習慣の向上（早寝・早起き・朝ごはん、十分な睡眠の啓発）	○学校アンケート（体に関する項目）【児童・保護者・職員平均９０％以上】 ※令和6年度81.0％	B	B	○新体力テストの結果は、男子が75.0％、女子が72.9％県平均を上回っている。昨年度よりは男は8.3％、女子は14.6％上がっているが、「進んで運動する」にはつながっていない。 **【体　82.0%】**	○引き続きロング昼休みを設定し、運動委員を中心に外遊びの奨励を積極的に行っていく。 ○体育授業の充実を図り、引き続き児童が多様な動きができるようにし、運動の楽しさを味わえるようにしていく。	B	○新体力テストの結果もよく大変すばらしいと思う。学校アンケート保護者のコメントにもあるように先生方が一緒に遊んでいるからだと思う。何か進んで運動できるような仕掛け（行事等）があるとよいと思う。 ○運動の習慣づけは難しいと思われる。しかし、運動を嫌いにさせなければ、長い人生で何かのきっかけで運動に親しむことは可能である。 ○子供会がなくなったため、地域の行事に参加する機会がなくなった。自治会や老人会等と一緒に運動の楽しさを実施したいがなかなか集まらないのが現状である。 ○県平均を上回る体力テスト結果だが、学校アンケート結果は目標に到達していない。 「体」の児童と保護者アンケートで唯一９０％を超える項目がなく、学校全体の方向性になっていない。 ○運動が諦めない心を育むアプローチの一つではあるが、児童によってはそれ以外の方法で諦めない心を育むことがあるように感じている。
学校独自	家庭・地域とともにある学校づくりの推進	○学校の取組を積極的に家庭・地域へ学校だより、ＨＰ等で発信・公開 ○学校運営協議会を中心に学校・家庭・地域が協働して子供たちを育む取組の実施	○学校アンケート（全般に関する項目）【保護者・職員平均９５％以上】 ※令和6年度93.6％ ○ＨＰ更新毎日	A	A	○ＨＰや学校だより等で、学校の取組を積極的に発信するとともに、学校運営協議会での内容を、知らせた。 **【全般95.1%】** ○教職員の働き方改革の取組を、保護者、地域へ紹介し、協力体制の構築をしていくことは、今後も課題である。 ○授業時数・日課表の見直し等、業務改善を図ることができた。在校等時間については今後も削減できるように努める。 **【全教職員超過時間月45時間は達成、年360時間以内超過時間未達成】**	○引き続きＨＰや学校だより、学級懇談会全体会等で、学校の取組を積極的に配信し、協力体制を築いていく。 ○教員が子供と向き合い、質の高い教育を行っていくための時間を確保するために、教員の業務の見直しを図り、できることは直ちに実施していく。 ・余剰時数、授業時数の削減 ・日課表の見直し ・集金の口座振り込みの継続 ・学校だより、学校からの通知、アンケートの電子化 ・宿題の実施方法の見直し　　等	A	○「すぐーる」で写真を公開するなど、とてもスムーズでスマートであった。 ○発信された情報や学校へ伺った時の様子で感じていることは、教師が明るく生き生きとしており、子供たちに向ける眼差しが温かい。今の高野台小学校の持ち味は「明るい温かさ」であり、その中で子供たちも教師ものびのびと力を発揮していると思う。 ○情報発信はできているが、保護者側の受け取り方はまちまちで、発信される情報をどう受け取ってもらいたいかから伝えていく必要がある点は課題に感じる。 ○家庭地域と共にある学校づくりとあるが、年に１回ぐらいは学校運営協議会、自治会区長、主任児童委員、民生児童委員、ＰＴＡ執行部、スクールガードリーダー、学校応援団の方々などが一同に集まって、地域、家庭、学校の共通問題点や目標についてそれぞれができる事を話し合う機会があったほうが、開かれた学校づくりとなるのではないか。 ○クラブ活動等、地域の方々に声をかけて協力してもらう必要がある。 ○働き方改革を進めながらも、地域や家庭・ボランティアを利用して教員の時間確保について、学校運営協議会で具体的な方法を話し合ったほうがよいと思っている。 ○働き方改革は、徐々に浸透しているはずである。保護者への周知を行い、ご理解・ご協力をいただけるようにしてほしい。
	子供たちと向き合い、質の高い教育活動の推進	○児童が安心して学べる環境の構築（生活アンケート等によるいじめの早期発見・早期対応） ○不登校児童・登校しぶり児童への対応（空き教室からのオンライン授業参加等、学習を保障） ○一人一人に寄り添ったインクルーシブ教育の推進 ○働き方改革への協力体制の構築（保護者・地域へ取組紹介）	○学校アンケート（全体-2,徳に関する項目-12）【児童・保護者・職員平均９５％以上】 ※令和6年度92.9％ ○不登校児童数の減少 ○学校評価（働き方改革に関する項目）【教職員１００％】 ○全教職員超過時間月45時間、年360時間以内※令和6年度 超過時間未達成	B					